

ちゅうざん



「ちゅうざん病院」は沖縄市松本にあるリハビリテーション専門病院です

回復期リハビリテーションの質点検として病院機能評価を活用

病院機能評価特別委員会 委員長 千知岩伸匡

ちゅうざん病院は、リハビリテーション診療の質を更によいものとするために、常日ごろより、各委員会や定例会議で業務改善のための取り組みをおこなっています。しかし、院内の職員だけでは余りにも当たり前になって、気づかない課題もあるはずです。そこで、客観的な視点でみてもらい、病院全体の改善につなげられるよう、日本医療機能評価機構の実施する病院機能評価を受審しています。

そして今回、令和6年10月21日に4回目（受審は5年毎）となる病院機能評価・高度専門機能（回復期リハビリテーション）を受審しました。当日は、医師、看護師、療法士からなる3名の審査員（サバイヤー）が県外からきてくれました。各部門管理者への聞き取り調査から始まり、診療記録などのチェック、ケアプロセス調査（これは患者が入院してくるときから退院までの流れの確認）、模擬的カンファレンス、院内ラウンドなど、評価は多岐にわたりました。

全職員による普段からの質点検・改善の成果もあり、終了時の審査員からのコメントはよい評価であり、安堵しました。これからも質の高いリハビリテーション診療を続けていくために、患者さんの立場になって考えることを業務改善の軸としていきます。



写真：(左)ケアプロセス評価の段取りを確認している多職種チーム

(右)日本医療機能評価機構から送られた認定証



ドクターズルールコラム

医師 勝山貴博

「ボツリヌス注射療法の重要性について」

今回ボツリヌス療法についてお話ししようと思います。そもそもボツリヌス療法とはどういったものであるかという、脳卒中等により上位運動ニューロン障害による陽性症状(いわゆる痙縮)が現れている筋に対してボツリヌス毒素を注射することにより症状を和らげる治療のことです。そもそもボツリヌス毒素と聞くと食中毒で有名な毒素なので不安になる方もいるとは思いますが、ボツリヌス製剤は毒性を取り除いてあるので心配はありません。そしてこのボツリヌス製剤がどのような機序かという、注射部位の筋肉の神経筋接合部においてアセチルコリン放出を阻害することにより筋収縮を抑え、その結果痙縮が改善されるという仕組みです。適応疾患としては上下肢の痙縮の他に眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙

性斜頸や神経因性膀胱・多汗症まで幅広く網羅しています。期間としては注射してから3日程度で効果が現れ、3週間程度で最大効果が得られ、3ヶ月程度効果は持続します。したがってボツリヌス製剤は継続して注射することが重要ですが、それよりもさらに重要なのはリハビリテーションとの併用です。ボツリヌス製剤注射により痙縮が改善した状態で歩行訓練や可動域訓練などのリハビリテーションをすることが最大効果を生むのです。痙縮等でお困りの際は是非こういった治療法があるということを知って頭の片隅に入れておいていただけたらと思います。

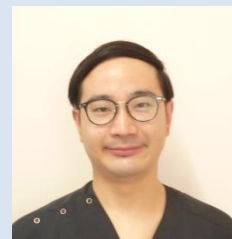
<ドクタープロフィール>

名前： 勝山貴博

(かつやま たかひろ)

出身地：岡山県

出身大学：川崎医科大学



教えて管理栄養士さん

栄養科 管理栄養士 志喜屋乃依

「食欲の秋」

「食欲の秋」という言葉があるように、秋にはたくさんの美味しい食材が旬を迎えます。

旬とは、その食材を最も美味しく食べられる時期を指します。旬の時期は栄養価が高くなり、また流通も増えるため安価になりやすいという特徴があります。今回は旬の食材の中でさつまいもについて紹介します。

さつまいもは糖質が多く含まれ、お米やパンの仲間に分類されるため体を動かすエネルギー源になります。

また食物繊維が豊富であり、さつまいもを切った時に断面から出る白色の液体「ヤラピン」という成分が整腸作用を高め、食物繊維との相乗効果から便秘への効果が期待できます。



さつまいも



さんま



きのこ



柿



栗

【さつまいもの肉じゃが】

☆材料

・豚肩ロース肉（薄切り）150g

・さつまいも 300g

・バター10g

(A)

・かつおだし 1/2 カップ

・本みりん 大さじ2

・酒 大さじ2

・醤油 大さじ1と1/2

☆作り方

①豚肉は食べやすい大きさには切る。

②さつまいもは皮付きのまま乱切りにし、水でさっと洗い、水気を軽く切って耐熱皿に並べレンジ(600W)で5分ほど加熱する。

③フライパンを温めてバターを入れ、豚肉を炒める。加熱したさつまいもと(A)を加えて汁気がなくなるまで煮たら完成。

1人あたりの栄養成分

エネルギー量：471kcal たんぱく質量：16.1g

脂質：18.8g 食物繊維：3.4g 塩分：2.1g

引用：キッコーマン さつまいも簡単レシピ





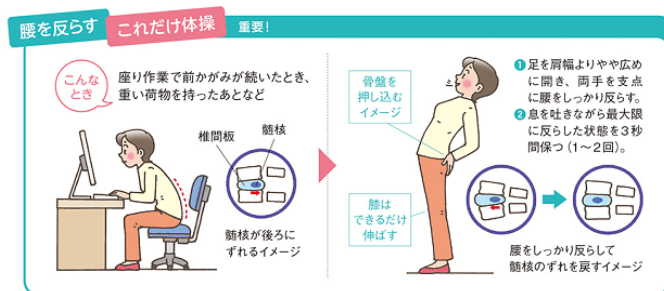
セラピスト・健康講座

リハビリ療法部 理学療法士 兼城有平

「原因のわかる腰痛は全体の約 15% ! ?」

腰痛で整形外科を受診すると、医師の診察や画像検査（レントゲンや MRI など）が行われます。その結果、椎間板ヘルニアなど診断名が付くのは全体の 15% といわれています(特異的腰痛)。残りの腰痛の約 85% が椎間板ヘルニアや骨折といった、明確な病変がない場合でも痛みを感じることがあります(非特異的腰痛)。特異的腰痛は原因疾患の治療が必要ですが、非特異的腰痛は明らかな要因がないため、過剰に心配せず、痛みを完全に取除くことが難しくても、痛みと上手につき合い、生活を充実させていくことが大切です。一方で、非特異的腰痛とストレスには密接な関係があると言われています。ウォーキングやジョギングなどの有酸素運動はストレスを軽減し、痛みに対するネガティブな考えを和らげます。その他、禁煙や適切

な睡眠といった生活習慣の改善も重要です。非特異的腰痛の治療は、鎮痛薬等を用いることもありますが、安静にするのではなく運動療法が推奨されています。腰痛があると、「とりあえず安静にしておこう」と考えてしまいがちですが、非特異的腰痛の場合、安静にし過ぎると、かえって治りにくくなったり、ぎっくり腰や椎間板ヘルニアが起りやすくなります。特に腰を支える筋肉を強化する運動や、姿勢を正すストレッチが効果的です。今回は、簡単にできる「これだけ体操」をご紹介します。



引用：東京大学 22 世紀医療センター運動器疼痛メディカルリサーチ & マネジメント 講座

部署の取り組み紹介

検査科 臨床検査技師 町田房江

「新しい検査機器導入で迅速で正確な検査結果を提供できます」

今年の 8 月末から、当院の検査室にて尿検査一般定性の自動分析装置①『栄研化学 US-2300』と生化学自動分析の②『日立 3500』の検査機器を導入しました。

これまで試験紙法の目視で行われていた pH、比重、糖、蛋白、潜血、ケトン体、ビリルビン、ウロビリノーゲン、亜硝酸塩、白血球の 10 項目を尿自動分析機器を使用する事により、検査の効率化を図っています。

生化学自動分析機では脂質や蛋白などの生化学、血糖、HbA1c、そして PT、APTT、FDP、D-ダイマーなどの凝固検査、心不全の指標となる BNP（免疫）の検査、尿中の電解質、尿クレアチニンが②の分析装置一台で検査可能となっています。これまで、ほとんどの検査を外注に出していたため、至急の検体の結果が報告されるまでに 1 時間半から 2 時間近くの時間を要していました。院内で検査が可能になったことにより、約 30 分以内に結果を報告することができるようにな

りました。当検査室では、迅速で正確な結果を報告できるよう、日々、検査業務に努めています。検査のことで、分からないことがあれば気軽に声をかけて下さい。



↑ 分析装置①栄研化学 US-2300



↑ 生化学自動分析装置②日立 3500



情熱エキスパート！

今回は看護部の知花主任にお話を伺いました。

Q1. 病棟主任として、職員教育をどのように行っていますか

職員の年齢やライフスタイルも様々なので、医療職として楽しく長く続けられるように働きやすい職場づくりを意識しています。職種の違いがなく、いつでも患者様の想いに対して話し合いができるようなチームを目指しています。また、患者様に対して普段行っていることは根拠をもってすればすべて看護と結び付けられます。日々、考えることそして、見本となって取り組むことを大切にしています。

Q2. 看護師の仕事をしていてやりがいを感じる時はどのような時ですか？

患者様のこれからの生活に向けてチームで話し合い、それが形となって退院支援できたときはこの仕事をやっていて良かったなと思います。

Q3. 趣味は何かありますか？

趣味は特にないですが、休みの日は子どもとどこで遊ぼうか常に考えています。いい遊び場スポットがあれば教えてください！

Q4. これからの仕事について教えてください。

入院生活の中で、個別訓練以外のアクティビティなどを病棟で取り組んでいきたいです。リハビリテーション以外の時間もリハビリという意識をもって、活動性が向上できるように取り組んでいきたいです。



<プロフィール>

名前： 知花ひかり

出身地： 恩納村

出身校： 石川高校、北部看護学校



新入職員紹介



知花風香さん
看護師



豊里春菜さん
看護師



藤井未弓さん
看護師



大宜味梨加さん
看護師



島袋南風さん
看護師

【編集後記】

ちゅうざん病院では今年で創立40周年を迎えます。これからも当院の基本方針でもあります「患者様のための病院」、「地域に開かれた病院づくり」のため、職員一同協力してまいります。

(外間)



発行責任者：田島文博

編集長：千知岩伸匡

編集員：外間亮太、前田ひかり